

『飯田語録』を学び、風の時代へと変容する

一般社団法人アーネスト育成財団 理事長 西河洋一

コロナ感染、デジタルトランスフォーメーション（DX）と変革の嵐の中にいる。日本人の生活様式や価値観など、基本的なところで大きな変容が起きている。「地の時代」から「風の時代」へと変化している。

飯田GHD創業時の飯田一男会長が残した『飯田語録』を見直した。「仕事のけじめ」「約束を守る」「自分の財産を活かす」の3つを紹介したい。

語録7：仕事のけじめ 仕事は節目、節目で一つずつ句読点を打ちながら進めていく

早く仕事することは基本であるが、仕事の句読点を打つことを忘れてしまうと効率を落とす。句読点が打てないと、どんどん仕事が溜まってしまう。

語録8：約束を守る 約束は絶対守るという考えを持つ。期日に間に合わなかったとしても、途中で絶対に逃げ出してはならない。約束は、信用そのものである。遅延などの関しては、相手に損害を与えてしまったら、その分はペナルティーを自分たちで受けて、約束先との良い関係を壊さないように注意する

約束を守ることができないと、良好な仕事の関係が長続きしない。失敗した時は逃げずに正直に相手に話し、自ら相手の損害をペナルティーとして受け入れることで、互いの信用が増していく。誠意をもって、約束を守ろうという強い気持ちが大切である。

語録9：自分の財産を生かす 経験は自分の財産、今まで色々試して経験してきた。成功も失敗もした。バブルの崩壊での大失敗も経験したが、今までにやってきたことは身に沁みついている。一度通った道、バブル以前の規模にはもう回復している。次のステップが楽しみだ

失敗を肝に銘じて腹に落とせば自分の財産になる。失敗した時の規模までは、今までの経験知で比較的容易に、復活できる。それから先、未知の挑戦に失敗を恐れず挑戦する気力を湧かせることが大事なことである。会社の成長を思うとワクワクする。